

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091600207
法人名	ひじり会
事業所名	グループホームさくら館 (ユニット名 <u>みのう</u>)
所在地	福岡県 久留米市 田主丸町 豊城1751
自己評価作成日	平成27年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成27年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームさくら館は耳納連山を一望できる緑と自然豊かな場所にあります。ホーム内は和を基本とした作りであり、居室は明るく広い。リビングでは利用者様が自分のペースでゆったりと生活出来るよう心むく快適な空間となっております。私達が大切にしている思いはさくら館の理念の中にあります「家庭的で笑顔あふれる暮らしができるよう一人ひとりの個性を尊重し、持たれてある力を最大限に活かせるよう支援します」この理念をスタッフ全員で共有し十人十色である今までのライフストーリーと個性を一番に大切にしていきます。利用者様の願いが叶えられるよう御家族と連携を図り、楽しみや生きがいを感じて生活できるように支援しています。また、地域交流の取り組みとして、芋植えや秋祭り、もちつき大会などの多くの行事やイベントを行ない、利用者様が地域と交流できる場を提供し社会参加の継続に力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) ○	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) ○
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38) ○	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) ○
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) ○	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) ○	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) ○	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) ○	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が認知症になられても住み慣れた地域で尊厳のある生活が送れるようスタッフ全員で考え独自の理念を打ち立てた。より理念を理解する為に勉強会を行ない、理念を意識し支援するよう心掛けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流行事として節分会、ひな祭り、芋植え、秋祭り、芋掘り、もちつきなど一年を通して、様々な行事を行い、地域の方と交流を深める事で利用者の社会参加の継続を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方が参加する運営推進会議において「認知症を理解する」と言う題目で研修報告を行なった。また、地域交流行事を通し、利用者の方と触れ合ってもらくことで認知症への理解を深めて頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常生活の状況や行事、ヒヤリハットの報告をし、意見や提案、要望を頂きサービスの向上に努めている。地域役員の方には地域行事や地域での防災などを深めるための提案を頂き地域参加出来るよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所職員、包括支援センター職員に参加して頂き、取り組み状況の報告や情報交換を行なっている。また行政主催の地域密着交流会にも参加している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人本部開催の拘束廃止委員会に参加しながら日常から拘束が行われていないか確認し身体拘束が無いよう努めている。拘束の具体的な行為については法人本部の研修会などで勉強会を行ない職員間で再確認を行なっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人本部の研修会などで勉強する機会を設け、身体的虐待だけでなく心理的虐待、金銭的虐待が行われていないか、職員同士が意識し未然に防ぐよう積極的に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されてある利用者がおられる為、定期的に権利擁護に関する制度について勉強会を行なっている。また、成年後見人制度が必要と思う御家族には制度の説明を解りやすく行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は疑問や不安が残らないよう重要事項、契約内容を書面で提示しながら納得いくまで説明を行なっている。また加算や看取りの同意についても書面をもって説明を行なっている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	内部と外部の苦情窓口を入居時に説明している。気軽に不満や苦情を表せるよう意見箱を設置し、何かあったら投書して頂くように声掛けを行なっている。また、家族会や面会時に意見や思いの表出に努めている。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会、ケアカンファレンス等で職員からの提案意見を集め利用者本位の運営が出来るように努めている。管理者は出来る限り現場に参加し、現場の声を聞き入れ、反映できるようなボトムアップの体質作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は各職員が意欲を持って働けるように状況に応じて、面接や会話を通し、心身の健康管理に気を配り、それぞれの個性や適応性の把握に努めている。また、意見を積極的に取り入れる事で向上心を高めれる様努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の採用にあたっては幅広く募集を行ない、公正な採用選考を行なっている。性別を問う事なく、幅広い年代の職員が利用者に関わる事で利用者の生活にも良い影響を与えている。また、職員が自己研磨を行ないやすい環境を整えている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表者及び管理者は全職員に対し日頃より利用者の尊厳を守る事を教育している。勉強会やカンファレンスでも一人ひとりの尊厳を大切にされたケアが行われているか確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回法人本部にて職員研修会を行なっている。月毎にテーマを設け職員全体のレベルアップに励んでいる。新人職員にはエルダー制を取り入れ、個人個人に合った指導を行ないスキルアップを行なっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所協議会の研修や地域密着型サービス事業所の意見交換会など、特定職員だけでなく多くの職員が参加出来る様に割り当てを行ない交流を通じてサービスの質の向上に繋がるよう取り組んでいる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の様子を伺いながら本人が困っていることや、希望などを聴いている。担当のケアマネージャーと職員が連携し、利用者様のニーズに応えられるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談があった場合には、ご利用前にホームに来館して頂き説明を行なうと共に不安や希望も聞いている。家族が意見を発しやすい雰囲気作りを心掛けている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所のサービス利用以外の選択肢も視野に入れ、必要なサービス情報を提供出来る様にケアマネージャー、ソーシャルワーカー等と連携を図っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は介護する人、される人に留まらず、一緒に生活を送る支え合う関係でありたいと考えている。野菜の皮むきや買い物などの家事や野菜作りや日曜大工など共に行いお互いの知恵や特技を引き出しあえる関係である様努める。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当事業所では家族と職員が協力し、利用者の願い事叶えを行なっている。利用者の日頃の状況や希望を家族に報告し、共有する事で共に利用者を支えている意識を高め、家族との利用者の関わる時間を多く持てる様によ努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活歴や趣味などの情報をもとに住み慣れた地域に出掛けたり、馴染みの深い場所を訪ねる様な支援を行なっている。また、思うように面会に出来ない御家族の元へお連れし、定期的に会えるような機会も設けている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立する利用者がいないよう座席の配慮を行ない、利用者同士がコミュニケーションを取りやすい環境を作っている。コミュニケーションが困難な利用者も職員が間に入り会話をつなぎ利用者同士が良い関係でいられるよう支援している		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居契約時に法人の関係施設の説明をするなど、サービスが終了しても関係が継続できる事を説明し安心して頂ける様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望される暮らしを会話や生活の中で表現が出来る様に支援し、御本人の意向が確認できない場合でも家族などより情報を集め利用者本位のケアが出来るよう努めている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	シートを活用し、生活歴、趣味、特技、馴染みの人や生活スタイルなどを利用者本人また御家族より情報を集め、今までの生活を出来るだけ継続しながらその方にあった生活の提供に努めている。また利用前のケアマネ、ワーカーとも連絡を図っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前の情報だけではなく、利用者と接する中で状況を把握出来る様に努めている。また、センター方式の一部のシートを活用する事で一日のリズムなどの現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、入居者に対し定期的に希望を伺い、出来る限り希望に沿えるようなプランを立てている。他職種とも意見交換を行ない、意見を取り入れ反映できるように作成している。また、モニタリングやカンファレンスを通じて現状の確認、見直しを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実践記録、日常生活の中でのエピソード記録、家族からの相談、職員の気づきなどを記入している。職員全員が情報を共有し介護計画を見直していけるよう気づきノートの活用を行なっている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者本人や御家族の意向を汲み取り、個別の対応がとれる様に支援している。状況によっては協力医療機関や他事業所との連携を図っている。入院中の洗濯等や外泊支援移送サービスに加え、電化製品や携帯電話などの持ち込みについても柔軟に対応している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議を利用し利用者の状況を説明し民生委員や地区役員の意見や助言を頂いている。ボランティアも積極的に受け入れている。地域の図書館や公園を利用し、町民祭りや催しにも参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院にこだわらず利用者本人や御家族が希望される医療機関を利用して頂いているが緊急時に備えての協力病院の体制についても十分に説明したうえで希望に沿える医療機関を選択して頂いている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	地域(協力病院)の訪問看護と連携を図り、些細なことでも相談し助言を受け記録に残している。定期訪問時のバイタルチェックの際にはスタッフも出来るだけ付き添うことで、スタッフ、看護師共に利用者の健康状態について把握出来るよう努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は医療機関(ソーシャルワーカー)、御家族と密に連絡を行ない、情報交換を行ないながら、状態が良ければ早期退院が出来るよう連携している。退院後も医師や看護師の助言を活かしながら、再発防止に努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合の対応に係る方針基に事業所としての方針を説明し、同意を得ている。状況の変化に伴い、関係者との話し合いを重ね、方針の共有に努めている。法人として、看取りに関する研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で定期的に行なわれている緊急時の対応についての研修への参加に加え、勉強会も行なっている。また、訪問看護師にも急変した時の対応について相談している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の立ち会いの下防災訓練を行っている。また、法人としても防災委員会を立ち上げ、毎月委員会を開き、連携の確認や訓練、備品の確認、マニュアルの作成、確認を行なっている。また地域の防災対策会議にも参加し避難所の活用について意見交換を行なっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月、接遇目標を掲げ、毎月の法人の研修でも確認を行なっている。個別の生活リズムや空間への配慮、特に排泄や入浴時の対応には留意しながら、個人の尊重やプライバシーへの配慮に努めている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の自己決定を尊重し、日頃から傾聴と納得して頂けるような説明を心掛けている。意志表現が少ない利用者の方でも、可能な限り自己表現できるような環境づくりを作っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	催事以外、特に日課を決めずその日の天候や利用者の希望に沿って少人数もしくは個別で対応できる体制にしている。起床、就寝、食事、入浴時間など個別のペースを大切にしよう心がけている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時など、本人の好みの服を選んで頂ける様支援している。理容、美容院は希望を重視し、希望のお店を利用して頂いて。御自分で希望されない方もスタッフが注意し定期的に理容、美容室を利用されるよう配慮している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理専門の職員が配置され、昼食、夕食作りを担当している。献立は入居者の好みを取り入れ、定期的に法人の管理栄養士がチェックアドバイスしている。入居者は買い物同行や米研ぎ、下ごしらえなどに力を発揮して頂いている。広大な畑を有し、季節の収穫物を味わう機会もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方のカロリーが増えないよう、おやつを工夫したり、疾患に対応した減塩を行なっている。嚥下状態や咀嚼状態をよく観察し必要に応じ、または希望があれば刻みやとろみをつけ提供している。バランスについては本部の管理栄養士に相談している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き、うがいを促している。自力で不十分な場所は職員が仕上げ磨きし、残渣物を除去している。定期で提携病院の歯科医師に口腔内チェックして頂き、必要に応じ受診を行なっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、必要な方の日々の状況やパターンの把握に努めている。オムツを使用されてある方がいても、個別に応じた声掛けや誘導、排泄用品の検討をしオムツを使用したままにするのではなく、失禁の軽減を図り、排泄の自立に向けたアプローチを行なっている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為の運動、水分摂取を促し毎日の排便チェックで排便状況の確認を行なっている。便秘傾向の方は訪問看護、主治医に相談を経て服薬等に対応している。また、ヨーグルトや牛乳など排便を促しやすい食品を提供している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴準備を行ない、希望や体調、状況に応じて柔軟に対応している。入浴順番や湯加減についても個別の対応を行ない利用者の好みに合わせて入浴を行なっている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息の時間は個人差がある為、個人の習慣を重視し、好きな時間に就寝、起床して頂いている。夜間、眠れないことの多い方には日中に活動して頂き安眠を促している。また、日中にも横になる機会を作っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬の内容をスタッフ全員が理解出来る様に介護記録と一緒にファイルいつでも確認出来る様にしている。ファイルには薬の名前、写真、効能、注意事項、副作用が記載されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活において役割を持って頂くことで生きがいを感じてもらえるような機会を設けている。また特技や趣味が活かせる場を提供したのしみを持つような支援を行なっている。その一つとして「願い事叶え」に取り組んでいる。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の移動手段に配慮し、希望や気候、状況に応じて散歩などで戸外に出掛けている。受診の行き返りも外出の機会ととらえながら、馴染みの場所等、個別や少人数で出掛けている。ウッドデッキにて気軽に日光浴が出来る環境がある		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時や定期的にお小遣いをお預かりしている為、外出時や希望時には自由に使用できるように支援している。買い物際には出来る限りご自分でお支払いして頂くことでお金の大切さや購入の喜びを感じて頂いている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は御家族のご都合も配慮しながら可能な範囲でご自由にご利用いただいている。年賀状や暑中見舞い贈り物のお礼状など、スタッフが支援しながら書かれている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広大な敷地に平屋建ての生活空間を有している。平屋である事と大きな窓や自由に行き来できるウッドデッキがある事で圧迫感を感じにくい作りとなっている。各所にベンチやソファ等配置する事で居場所の確保しやすい環境になっている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングやダイニングを明確に分けている。ソファやテーブルを多く配置しているので気の合うもの同士のグループを作りやすい環境になっている。テーブルをわけて配置しているので一人でもくつろぐこともできる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	陽当たりの良い作りで採光もよく明るい。自宅より持ち込まれた家具や仏具テレビなど持ち込まれよりご自分のお部屋に近い環境になられるよう配慮している。居室の入口には個人の作品や馴染みの物を展示できるようなスペースもある。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室には大きく貼紙をするなど理解しやすいような工夫をしている。時計やカレンダーネームプレートは目線に合った位置に設置している。季節に合わせた掲示物を考え、生活感がなくならないような、レイアウトをしている。		